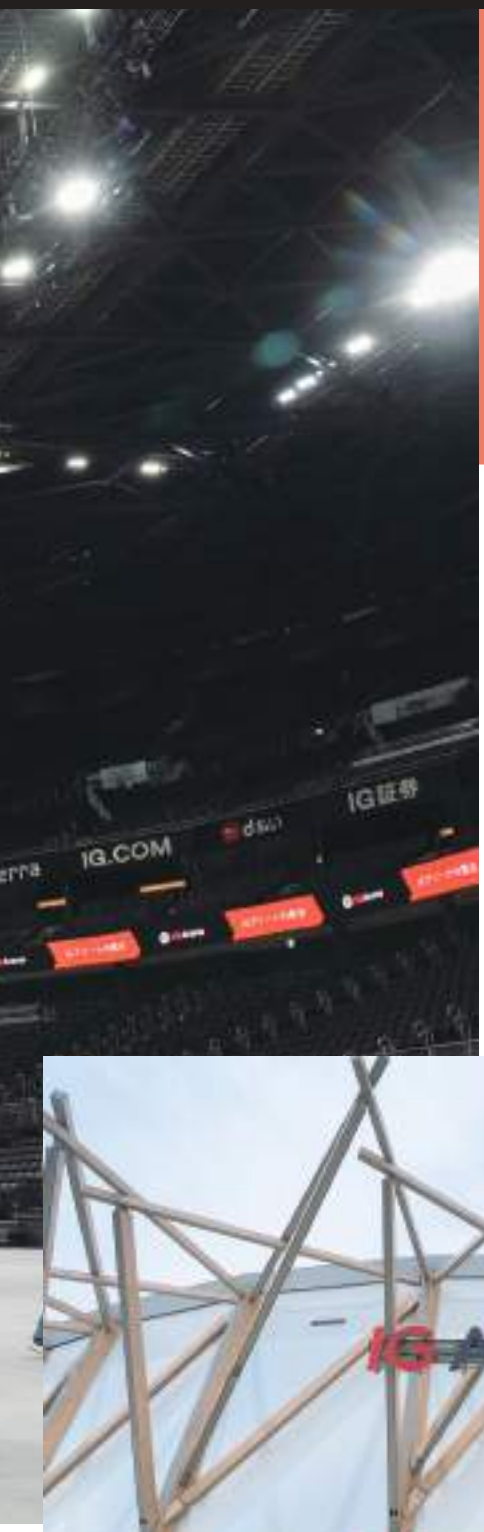
愛知・名古屋の新たなランドマーク『IGアリーナ』を視察

視察者（名古屋税務署　松田法人一統括官と古市委員長をはじめとする広報委員のみなさま）



2025 年 7 月、愛知県名古屋市北区に国内最大級のスポーツ・エンターテインメント複合アリーナ『IG アリーナ（愛知国際アリーナ）』がグランドオープン。そのデザインを手がけたのは建築家の隈研吾氏。周囲との調和を考慮し樹形が配された外観は、印象的かつ心地良い存在感を誇る。施設内は、スポーツ向けのオーバル型と音楽イベントに適した馬蹄型を融合させた国内初のハイブリッド構造。また、安全便利な最新設備、名古屋めしをはじめ世界の食をいただける飲食店なども充実。去る６月某日、当地区におけるこの新たなランドマークの内覧会に招かれた我々中法人会一行は視察を行った。

さまざまな音楽・ステージ・スポーツの会場としてはもとより、B.LEAGUE の名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームアリーナとしての盛り上がりにも期待。

３F の VIP フロアでは多様なホスピタリティを提供。愛知県産の木材を随所に使用することで上品さとぬくもりのある空間を実現。

A new landmark in Aichi・Nagoya

「IG アリーナ」概要　（数字は約）

事業主体	愛知県（官民連携）
管理運営	株式会社愛知国際アリーナ
所在地	愛知県名古屋市北区名城 1-4-1 名城公園内
階数	5 階建て
高さ	建物高さ 41m、 アリーナ内天井高 30m
建築面積	26,500 ㎡
延床面積	63,000 ㎡

最大収容人数

17,000 人（立ち見含む）、
バスケットボール時 15,000 人（着席）
飲食店舗・ワゴン店舗区画：30 区画

うちのおやじ

左）小川栄一郎氏　右）小川薫氏

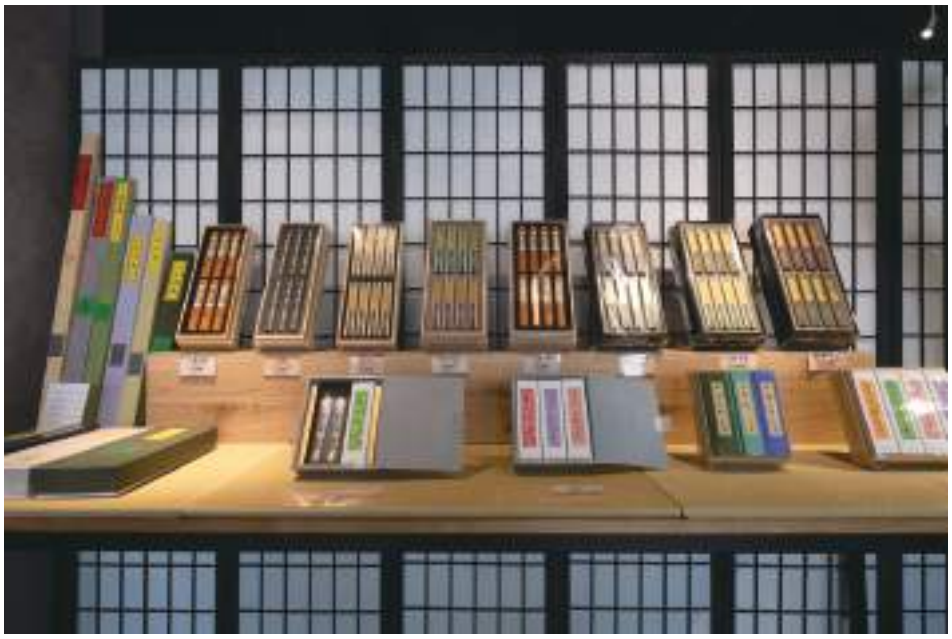
「香り」

「春香堂」のはじまりについて教えてください。

創業は大正 10 年。清須の農家出身のうちの祖父・栄次郎が、家を出て名古屋の漢方薬のお店で丁稚奉公をはじめたのが原点になります。当時は漢方薬が主流の時代だったんですよね。そこで 10 年、20 年と働いたのちに独立。最初は南桑名町、今の白川公園近くで薬屋を開いたんです。
ただ、最初からうまくいったわけではなく、あんこを練るアルバイトをしてしのいでいたそうで。仕事柄、混ぜるのが得意だったその技術が役に立ったのでしょうね。そして縁があり、餡をねっていた「雀踊り」という和菓子屋さんに気に入られ、本町通から大須の赤門通に引っ越すことに。

に人生を懸けて。

名古屋・大須の地に根ざして 100 年以上を数える、お香の老舗「春香堂」の三代目として店を守る小川薫氏・四代目の栄一郎氏。創業から積み重ねてきた歴史、個人的に取り組んでいる香木研究、そして、次代へつなげたい想いなどについて聞いてみた。



大須に移転してからの展開は？

移転先の赤門通は、昔から薬屋が集まる通りでした。最初は薬屋としてはじめましたが、やがてお寺の住職さんたちから「ここじゃ薬は売れんよ、香を作ったらどうだ？」とアドバイスをもらい、お香をつくりはじめたのです。
その結果、品質が良いと評判になり、周辺には大須観音や万松寺などお寺が多い土地柄もあり、事業は軌道に乗っていったとのこと。また、修行僧たちが地方に戻る際にも、うちのお香を買い届けてくれるなど、じわじわと春香堂の名は各地へと広がっていったのです。

お香の魅力とは？

お香というものは、単に香りを混ぜればできるものではありません。調合する職人、束ねる職人、寝かせる工程、乾燥…すべてに専門の技が必要になります。しかし、時代と共に職人さんが減り、今では原料から自分たちでやらなきゃいけないところまできています。
もともと商社に入りたいと思っていました私ですが、先代の父から「面白いぞ」と言われ、試しに実際やってみるとその奥深さにのめりこみました。たとえば、いい素材を使えばいい香りになるというわけではなく、逆にちょっとクセのある素材同士を合わせることで素晴らしい香りになることがある。また、足し算ではなく掛け算、いや、

時には引き算になる、そんな妙のある世界は私にとっても面白いものだったのです。

現在、店を営むとともに精力的に取り組んでいることがあります。それは沈香（じんこう）研究家としての活動です。沈香とは、主に東南アジアなどの熱帯地方に自生する高級香木のことで、。人の手でそれを育むのは非常に難しい樹木になります。私自身、1990 年代から毎年のようにベトナムやマレーシア、インドネシアなどに足を運んで、現地で栽培や採取の方法を学び、気づけばいつしか沈香のスペシャリストみたいになっていました（笑）。
2017 年には中国の北京中薬科大学のセミナーに講師として招かれこともあります。中国の研究レベルはとても高く、海南島などでは香木の人工接ぎ木技術も成功しています。私も現地に見に行ってノウハウを学んできました。それをこれからもっと生かしていきたいですね。

実のところ、名古屋は香との縁が深い街なんです。織田信長が父・信秀の葬儀で香を投げつけたという逸話は有名ですが、ほかにも、江戸時代に徳川家康が朱印船貿易でベトナムからお香を取り寄せていたという記録も残っています。また、尾張徳川家もお香に関心が深く、お香をたしなむなど、その当時から名古屋にはお香を文化として根付いている土壌があったんですね。うちの商売がこの地で続けられたのも、とりわけお香のニーズの多い大きなお寺が点在する、名古屋の中心部の街・大須に店を構えたからだと思います。

小川さんにとっての「法人会」とは？

私は 33 歳のときに法人会の青年部に入りました。今でも覚えているのが、ある先輩から「お前が会長をやれ」と言われて、自分では無理だと思いながらも挑戦したこと。会議で案を出して、議論して、決議して…そのプロセスは会社ではなかなか経験できない貴重なものでした。当初、青年部の会員がどんどん減ってしまった時期もありましたが、そこから仲間と一緒に立て直していった経験は、今としては本当に大きな財産です。

そして今、息子も青年部に加入しています。特に私が勧めたわけではなく、彼の意思で決めたことで、たまたま同世代の仲間がいたことが大きなきっかけになったようで。私は彼に、二代目が私に伝えてくれたように「香りの面白さ、奥深さを知ってほしい。そして、香りを通して人とつながる喜びを感じてほしい」と、心から願っています。とはいえ、普段はお互い頑固なところがあるので、時々ぶつかったりもしますけど（笑）。

伝統を守りつつも栄一郎氏の新たなアイデアが織り混ざり、春香堂はさらなる進化を続けている

最後にひと言

お香は、単なる商品ではなく、祈りであり、文化であり、人と人の気持ちをつなぐものです。私たちがつくるお香が、誰かの生活の一部になって、心を穏やかにする。そういう瞬間をお届けできるのであれば、それが一番のやりがいです。だからこそ、これからも丁寧に、まっすぐにお香と向き合っていきたいと思います。

春香堂

1921（大正 10）年創業のお香・線香の専門店。
伽羅・沈香・白檀・線香・焼香・ろうそくなど、多彩なお香をはじめ様々な関連商品も扱う。
大光院（赤門明王殿）のすぐそば。

名古屋市中区大須 2-15-32
10:00 ～ 18:00
年中無休（年末年始、臨時休業を除く）
052-231-0650
https://www.kaori.co.jp/